

第42号 (10月号) 2016年 10月1日	七里ヶ丘こども若者支援研究所 それが社会参加だ!	住所:鎌倉市七里ヶ浜東 2-31-12 連絡先 090-7212-4055 Email:qq5656r9@happytown.ocn.ne.jp 編集長新舛秀浩 発行責任者:滝田衛
----------------------------------	------------------------------------	--

自由に生きていいんだよ

安川有里さん (会員)

「自由に生きていいんだよ！」この言葉が心に残った、8/28 開催のひきこもり講演会。縁あって、子ども若者応援団の一員として毎回イベントで司会を担当しています。いつも充実したイベントで楽しみにしているのですが、今回は、ひきこもりの当事者とその家族の思いを語って頂くという画期的な企画でした。

島根三枝子さんの長年の経験に基づいた絶妙なりードで、当事者のお母様である川辺順子さんと当事者である新舛秀浩さんと涌井貴暁さんから、絞り出すような心の声を伺うことが出来ました。「辛かったんだね」「頑張ったね」そんな陳腐な声かけは、当事者にとって、そしてその家族にとっては、心の支えになるどころか、マイナスであることが伝わってきました。

日本社会がどんどん窮屈になっていく、一方学校も職場も型にはめる傾向が強くなってきています。私が定期的に行っている「横須賀討論会」でも、学校現場でこの件について様々な意見が交わされました。不登校になったり家にひきこもったり、そんな生徒は社会が作った枠のなかでは深呼吸なんて出来る訳がない、という意見もありました。

今回の講演会は当事者の心の声を聞くことで、「私たちひとり一人が、悩んで社会に出ることのために悩んでいる子ども若者と、どのように関わって行くか」ということについて、改めて考える機会を与えてくれました。そして、当事者の方々が、一步新しい活動をしようというそれぞれの「発信」で講演会を終えることが出来ました。「子ども若者応援団」だから出来ること、これからもみんなで話し合い試行錯誤していきたいと思えます。そう、自由に生きていいんだから。

著者安川さん。撮影川辺さん



コラム風

話す書くことから自由になるのだろうか、人は。^{かんもく}緘黙の人が話すのは難しい、字のへたな人が書くには覚悟がいる。聞き読む側も想像力と時間が必要となる。コミュニケーション力を高め、プレゼンテーションも不可欠な時代である。そう、お気づきだろう。「空気を読む」「話し上手」「字がきれい」が評価され、「空気を読めない」「話しべた」「字が汚い」、さらに人間関係に緊張する人は距離をとり黙り込むしかない。



優勝後のカープスタジアム

就労支援機関でさえ、「話さない仕事、バックヤードで働く」と本気で進める。こういう技術対応だけで、話す書くことの苦手意識が解決するだろうか？ 否！ 疎外の極みだ。「ゆっくり」「たどたどしく」「分かりにくく」でもいい、肝は自分のペースで何度でも時間をかけ、人と人が向き合い理解しあっていく、これこそがコミュニケーション。生き馬の目を抜く(古いな?)現代、「無理だよ！」の声が聞こえるが、そうだろうか？ 雑談やハウレンソウ(報連相)、相談や告白は常に1対1 face to face の関係で実現する。時間をいとわない自由から、話し書くことが実現する。(滝田)



原爆詩人 栗原貞子文庫

それぞれの生き方が大事

@9月25日応援団会議—実況中継@

ようやくの晴れ間、どぶ板は観光客がたくさん押しよせていました。安川さんが陣取り？ & テープ起こしで一番乗り。滝田は午前訪問相談、会議前に不登校・ひきこもる青年の成長秘話をK先輩に伺い2番乗り。次に川辺さん登場、4年生ハードになった勉強と向き合う笑顔で近況を。そこへ新舩さん「調子悪いんで帰ります」と律儀に顔を出してくれました。(写真右) 涌井さんは障がいを負ってしまった中学時代の友達との痛飲？しかしスナックのママの障がい者



論議に12時間深酒へ・・・最高の話でした。高島・川辺さんが登場。親戚の突然死による法要そして息子さんの爽やかな進路決定談を高島さん、川辺さんは8月講演会での発言と親子を振り返る清々しい報告を。龍崎さんは「仕事に追われる毎日で、こういう場が大切。奨学金を受け学ぶことは大切だが、今の生活を振り返るとナントモ言えない」と。他の会合で遅れて小幡さん、川崎のたまりば25周年の会に参加して「スゴイ！」と語りはじめ議会報告、若者支援の現状、池上地区での学習支援10月開始、さらに市民協働・女性参画の現状を多角的に語ってくれました。遅れて参加の飯田さんは「障がい者就労移行支援をやめ普通に仕事を始めたが大変。派遣の担当者の言うことが。明日は休みをもらいました、辞めないで続けていきます」(帰りながら聞くと時給930円、朝8時、週5日、食品ライン作業)と。生きることに誠実に取り組む笑顔の彼に参加者の称賛が。改めて、ひきこもりの在宅就労 社会参加＝働く？ 大切なのは生き方、という結論となりました。

最後は、今後のこども若者応援団の運営の在り方、“いじめ・不登校解決市民サミット”の具体化、解決とは何かを問いながら。毎回、会に参加するしんどさを感じる。終わってみると10人十色の人の生き方を実感できる。今日も軽やかな足取りで帰宅の途につきました。(滝田)

それぞれの風 “すぐそこにあること”発行の軌跡 すぐそこにある思い

不登校 & ひきこもり体験は僕にとって何一つ良いことはなかった。だが、エッセイを毎月書き、まさか冊子になるとは夢にも思わなかった。まるで真っ暗だった人生が白い石を一つ置くと真っ白になるオセロを思い出させる感じを味わった。この冊子を作製するにあたり、毎月丁寧な感想を下さり僕の書く力となった岩室紳也医師、毎月読み続けてもらい終わりの言葉を書いてもらった会員の山本さん川辺さん、そして編集に尽力ください滝田さんに心からお礼申し上げます。これからもぼちぼち書くので感想などいただければ幸いです。(新舩秀浩)

○高校コーディネータ研修会で「若者の生きづらさ」の講演をしました。先生方は、親子関係、貧困とバイト、発達障害の受容、無気力と性…苦戦する生徒に向き合い葛藤する問いを發していました。学校だけが抱えず、内外の大人が手を取り寄り添う社会環境改善を実感でした。(滝田)

【ご参加下さい】
応援団会議・作業は横須賀市サポートセンターで行います。誰でも参加できます。途中参加中座歓迎です。

10月研究所開設日程 相談時間10時～16時土日訪問はご相談

1日(土)	相談室、講演会参加	17日(月)	相談室
3日(月)	相談室	20日(木)	フリーラウンジ ※
4日(火)	横須賀市支援教育	24日(月)	他事業
6日(木)	フリーラウンジ ※	28日(金)	県小中一貫教育
13日(木)	逗子市第2地区講演	29日(土)	発送作業日 2:00～
16日(日)	応援団会議 2:00～	※タキタ塾、不評につき改名(笑)	